

1. 調査報告概要表

作成日 2007年7月27日

【評価実施概要】

| | |
|-------|--------------------------------|
| 事業所番号 | 1072300195 |
| 法人名 | 株式会社 トミタ |
| 事業所名 | グループホーム にこにこ倶楽部 |
| 所在地 | 多野郡吉井町馬庭50番地 (電話) 027-388-3000 |

| | |
|-------|-------------------------|
| 評価機関名 | サービス評価センター はあとらんど |
| 所在地 | 前橋市大友町2-29-5 コミューン100-B |
| 訪問調査日 | 平成19年6月20日 |

【情報提供票より】(19年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | |
|-------|----------------------------|
| 開設年月日 | 昭和・平成 14 年 3 月 1 日 |
| ユニット数 | 3 ユニット 利用定員数計 27 人 |
| 職員数 | 23人 常勤 15 人, 非常勤8人, 常勤換算 人 |

(2) 建物概要

| | | |
|------|-------|--------|
| 建物構造 | 木造 | 造り |
| | 1階建ての | 1階～階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|------------------|---------------|------------|----------|
| 家賃(平均月額) | 45,000 円 | その他の経費(月額) | 18,000 円 |
| 敷金 | 有(円) | 無 | |
| 保証金の有無(入居一時金含む) | 有(200,000 円) | 有りの場合償却の有無 | 有/無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| または1日当たり 1,000 円 | | | |

(4) 利用者の概要(5月1日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 27名 | 男性 | 5名 | 女性 | 22名 |
| 要介護1 | 3名 | 要介護2 | 5名 | | |
| 要介護3 | 13名 | 要介護4 | 4名 | | |
| 要介護5 | 2名 | 要支援2 | 名 | | |
| 年齢 | 平均 83.5 歳 | 最低 | 69 歳 | 最高 | 96 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|------------------|
| 協力医療機関名 | 公立富岡総合病院 吉井中央診療所 |
|---------|------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「心の通った介護」をモットーに、管理者、職員一同は利用者の希望に沿った介護を実現していこうと、ケアの質の向上にむけて取り組んでいる。日々の生活の中での声かけを大切にしながら、その人らしい思いや希望の把握に努めている。重度化した場合や終末期のあり方については、対応指針が定められている。職員の声かけや態度はやさしく穏やかであり、利用者がゆったり生活されているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|---|
| 重点項目① | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>異臭の配慮では、トイレやリネン室の収納容器を交換し改善された。口腔内の清潔保持では、歯科医の回診や利用者個別の口腔状態に応じた支援をするように改善された。感染症対策では、研修に参加したり、マニュアルを作成し、全職員で学習しながら予防・対策に取り組むようになった。食事を楽しむことのできる支援では、職員は介助する一方になっており、利用者と一緒に食べていないので改善されていない。</p> |
| | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、介護支援専門員、各ユニットリーダーで作成した。評価結果については、ミーティング等で職員に伝達し、改善に向け活用している。</p> |
| 重点項目② | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>主な討議内容は、ホームの紹介(ホーム内案内)、年間行事の説明、介護計画における利用者の問題点、地域の連携に関するボランティアの要請、質疑応答。それを活かした取り組みとしては、ホーム便り『にこにこ通信』を社協や地域包括支援センター、役場に設置したり、家族等に送付しグループホームに対する理解を地域に発信していく。</p> |
| 重点項目③ | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情の受付を文書で明示しており、管理者がホーム側の窓口になっている。玄関に意見箱を設置している。家族の面会時には積極的に声かけし、意見や要望等聞き取っている。運営推進会議には家族も参加している。</p> |
| 重点項目④ | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の一員として、隣保に所属し、道普請等を通して交流している。区の祭りにも参加している。馬庭幼稚園の園児が散歩の時に寄ったり、運動会に招待されたり交流を深めている。吉井高校の軽音楽部や地域のボランティアが多数来訪している。</p> |

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 「町に出て、地域の人や自然とふれあいながらの普通の暮らし」とパンフレットに表示してあるように、地域密着型サービスとしての役割を考えながら、事業所としての理念をつくりあげていこうと現在職員で検討中である。 | | |
| | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 「心の通った介護」を提供する為、管理者と職員は理念を共有し、毎朝のミーティングや職員会議の時等に取り組む姿勢を確認しあっている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の一員として隣保に所属し、道普請等を通して交流している。地区の祭りに参加している。馬庭幼稚園とは園児が散歩の時に寄ったり、運動会に招待されたり交流を深めている。吉井高校の軽音楽合唱部や地域のボランティアが多数来訪している。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 臭気の配慮ではトイレやリネン室の容器を蓋付きや大きい容量の物に交換した。口腔内ケアは歯科医の回診や利用者個別の取り組みで清潔を保持している。感染症マニュアルを作成し、感染症予防対策の研修に参加している。役場の担当者とはFAXで連絡を取っている。 | | |
| | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 役場職員、社協職員、区長、地域包括支援センター職員、利用者家族、ホーム職員で議題を決め話し合っている。検討された事は介護の現場で活用している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|--|------|-----------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 役場の職員とは、運営推進会議以外にも利用者の相談や行事等に関する意見交換等を行っている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 家族等の来訪時には声をかけ、利用者の状況や家族のことについて話し合っている。本人の写真と日常の様子を知らせる「にこにこ通信」を定期的に家族に送付している。家族と金銭管理の取り決めをしており、月1回その出納を明示している。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関正面に意見箱を設置しており、運営推進会議に家族も出席している。家族等来訪時には積極的に意見・要望を聞き取っており、くり返し運用方法を伝えている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 基本的には、各ユニット毎に職員を決めており顔馴染みの職員によるケアを心がけている。職員の移動は最小限にし、利用者へダメージを与えるであろうと予測できることには、予防策をとるようにしている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員は虐待防止研修、感染症予防対策研修、認知症実務者研修、管理者研修、グループホーム連絡協議会の研修、ヘルパー研修等にやり繰りして参加している。その内容については会議やミーティングで報告しており、資料はファイルし各棟に設置している。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡協議会の研修や認知症実務者研修等に参加している。他のグループホームの見学や地域の同業者と情報交換等しながら、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|--|------|---|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 本人や家族から思いや状況、生い立ち等の話をよく聴いたり、見学してもらいながら本格的な利用に移っていくよう支援している。入居後も1週間位は家族に訪問してもらったり、帰宅や外出等利用者の希望に応じて支援している。1ヶ月位は様子観察をし、利用者が環境に馴染めるよう配慮している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、昔の話を聞かせてもらったり、色々な事を相談したり、茶道の先生だった方にはお点前をしてもらっている。一緒に生活する家族の一員として、学びあい、支えあう関係を築いている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとりの言葉や表情の中からサインを見逃さず、本人の思いや希望を汲み取るよう努めている。家族からも情報を得るようにしている。利用者の希望により、畑仕事や庭の草むしり、うどん打ちや編物等支援している。喫茶店や外食等にも出かけている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人や家族から意見や思いを聞き取るようにしているが、介護計画に十分反映されていないケースもある。 | ○ | 日常のかかわりの中で、本人の思いや意見を聞いたり、面会事や電話等で家族からの意見や思いの聞き取りを十分に行い、ケア会議の中で情報交換しながら、それぞれの意見やアイデアを反映した、本人本位の介護計画を作成して欲しい。 |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画の見直しは6ヶ月に一度と状態の変化に応じてしているが、職員全員で評価を行うことや、家族等との話し合いも十分ではない。 | ○ | 介護計画の遂行状況、効果などを評価するとともに、職員が記録する利用者の状態変化や状況、本人・家族の要望に応じて、臨機応変に見直ししていくことが望まれる。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 本人、家族の状況に応じて、通院や買い物等必要な支援は柔軟に対応している。医療処置を受けながらの生活の継続や重度化した場合の支援も行っている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時、本人や家族の意向を確認している。協力医の他、かかりつけ医での受診をされている方もおり、家族と協力して通院介助を行っている。歯科医にも往診してもらっている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 「重度化した場合における対応に係わる指針」を作成し、入居時に本人や家族に十分説明し、意向を受けとめ、方針の統一を図っている。かかりつけ医、看護師、家族、職員で状況の変化に応じたくり返しの話し合いをしながら対応している。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 一人ひとりの人格を尊重し、やさしくさりげない介助をしている。記録等の個人情報の取り扱いに関しては、秘密保持の徹底を図るよう指導している。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 散歩や畑仕事、掃除、配膳、外食、ドライブ等一人ひとりの状況や思いに配慮しながら柔軟に支援している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|---|------|---|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立づくりから調理、片付けに至るまで、食事一連の流れの中で、配膳や片付け等している利用者も見受けられたが、利用者一人ひとりの好みや力を活かしきれていない。職員は介助する一方で、利用者が食べ終わってから別に食べている。 | ○ | 利用者の中には買物や調理等、見守りや支えがあれば力を発揮できることが沢山あるので、前向きな意思や気持ちを引き出すような声かけや場面づくりの工夫をしてほしい。利用者と職員が同じ食卓を囲んで、一緒に食事を楽しめる雰囲気づくりに期待したい。 |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 基本的には月、水、金週3回午前中に入浴支援をしている。他にシャワー浴をする場合もある。 | ○ | 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの習慣や好みをよく聴いて、相談しながら個別にあった入浴の支援をしてほしい。 |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 畑仕事、園芸、掃除、配膳、編物、うどん打ち、ホットケーキパーティー、誕生会、内庭でのお茶会、散歩、外食、お花見、ボランティア(歌、踊り、フラダンス、ハーモニカ、南京玉すだれ等)の来訪等で役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 天気の良い日は芝生の内庭で体操やお茶会をしたり、散歩やドライブ等にも出かけている。喫茶店や外食にも希望者を募り出かけている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中、玄関扉は施錠している。家族に説明し理解を得ている。 | ○ | 出ていく気配を職員が見落とさない見守りの方法を徹底し、また、一人ひとりのその日の気分や状態をきめ細かくキャッチすることで、利用者の安全を確保しながら、日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援してほしい。 |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 消防署の協力を得て、年2回利用者と一緒に火災訓練等を行っている。避難しやすいよう各棟の出入りにスロープを設置した。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事摂取量、栄養バランス、水分量等チェックシートに記録し、情報を共有しながら支援している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関に季節の花を飾り、廊下には行事の写真を掲示してある。居間には調度品や置物、ぬいぐるみ等家庭的なものを設置している。芝生の庭の花壇には季節の花が植えられている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | お気に入りの調度品や置物、家族の写真、テレビ等持ち込まれ、落ち着いて過ごせる場所となっているように見受けられた。 | | |